



2013年12月1日

No. 108

「聖書を読まなかったのですか」

東京フリー・メソジスト教団 南大沢チャペル 牧師

聖書を読む会 理事 水口 功

聖書を読む会（SYK）は、司会者のリードのもとで、小グループで聖書をともに読み、真理のみことばを学び、味わい、それぞれの生活に生かすことを目指す働きです。聖書の読み方は帰納法的であり、観察、解釈、適用の質問がSYKの手引では用意されています。手引の質問は、できるだけ聖書本文から離れることなく、前後の文脈にも注目するように作られています。また答えは必ずしも一つではないとの心得で、質問が用意されています。そのようにして作られたSYKの手引を参考にして、私自身学生時代から、聖書の魅力、おもしろさを、長年経験してきました。

しかしながら、最近、グループ聖書研究に長年携わっている人たちにも、イエスさまはあえて「あなたがたは聖書を読まなかったのですか？」とチャレンジされているのではないかと考えています。私はそのことを、「なぜ彼らは、安息日なのに、してはならないことをするのですか」（マルコ 2：24）と質問してきたパリサイ人たちに、イエスさまが「ダビデとその連れの人たちが、食物がなくてひもじかったとき、ダビデが何をしたか、読まなかったのですか」（マルコ 2：25）と答えられた言葉から思い巡らしています。旧約聖書の教師であったパリサイ人たちは、Iサムエル 21：1～6 に記されている出来事<普通のパンがなかったので、祭司があえて聖別されたパン（祭壇に供えられたパン）をダビデに差し出した>を当然、読んで知っていました。しかし彼らは、この出来事を、律法から派生した規定を越えて優先された実例として知っていても、受け入れませんでした。私たちも例えば「神の恵み」の教理を、聖書を読んで知ってはいても、「読まなかったのですか」とイエスさまから言われることはないでしょうか？知的に理解できたら、実践していなくても、何かもうできたかのように勘違いしていることはないでしょうか。

みことばを語る者も聞く者も、またグループで聖書を読む機会に恵まれている者たちも、みことばの理解を、知的レベルに終わらせず、主イエスが私たちのたましいに語りかけてくださるメッセージとして、受けとめていきたいものです。